



## 令和7年度通常総会報告

長崎県技術士会 会長 山口和登

6月7日（土）、諫早市のホテルセンリュウにて、令和7年度通常総会を55名の会員出席（欠席者の委任状・先行議決権行使者は62名）のもと開催し無事終了しました。その後、公益社団法人日本技術士会九州本部長崎県支部年次大会、そしてCPD研修会を開催しました。引き続き交流会を開催し盛会のうちに終わることができました。交流会は研修会講師、昨年度の新規合格者を含め、今回34名の参加者となりました。

ご協力ありがとうございました。

総会の議案内容については会員各位には事前に周知済みでありますので、ここでは総会での決議概略状況等をご報告申し上げます。

総会は川村副会長の総会成立（会員総数200名の3分の1以上の参加で成立し、今回は委任状等を含め117名の参加）宣言の後、第1号議案から第6号議案の審議及び報告事項の説明が行われました。以下、それぞれについて報告いたします。

### I. 総会議案

#### 第1号議案：令和6年度事業報告

原案の通り承認

6年度の主な実績は、①昨年6月の総会開催②役員会の年6回の定例開催③昨年度6月、11月、12月、1月の4回のCPD研修会（現場見学会は6年度分は翌年度実施のため中止）の日本技術士会長崎県支部との共催による実施、長崎地盤研究会の勉強会・ジオラボの後援団体として年

## 長崎県技術士会

令和7年 7月10日発行・責任者 山口 和登

4回の勉強会、1回の現場見学会に参加、産業基盤維持管理技術研究会の講演会（8月、10月、3月の3回）、現場見学会（1月の1回）への参加 ④機関紙「APREN」の年4回発刊配信、会員名簿6年度版の作成（350部）、そして会員及び関係機関に配布 ⑤会員の増強、令和7年5月現在の会員数200名で会員都合による退会、逝去のための退会があり、新入会員が12名と多いにかかわらず、昨年総会時から6名増の会員数となりました。

⑥その他、長崎大学における技術士会による第10回講義の実施：受講大学生37名、長崎大学工学部外部評価委員会への参加等です。具体的には長崎県技術士会のホームページ、機関紙「APREN」を参照してください。

#### 第2号議案：令和5年度収支報告及び監査報告 原案通り承認

詳細な金額等は紙面の都合上ここでは省略しますが、議案書において周知した通りです。6年度の収入は546,463円、支出は819,466円で次年度への繰越金は1,622,072円です。詳細は議案書（事前に全会員に配信済）をご参照ください。会計監査は3/27（木）に監事2名により実施され、すべて適正に処理されていることが確認され、その結果が総会で清水監事により報告されました。

#### 第3号議案：令和7年度事業計画（案）

原案通り承認

7年度の主な計画は、①総会及び役員会の定

例開催 ②長崎県技術士会・日本技術士会長崎県支部共催のC P D研修会の年4回開催、現場見学会の年1回開催 ③長崎地盤研究会ジオラボ（長崎県技術士会後援）への年4回の勉強会参加、年1回の現場見学会参加、産業基盤維持管理技術研究会への年3回講演会、年1回見学会参加 ④機関紙A P R E Nの年4回の継続発刊配信、会員名簿は創立50周年事業の関係上、400部作成・配布、会員名簿のホームページへの掲載 ⑤長崎大学との連携強化、長崎大学工学部外部評価委員会等への参加、他技術機関との連携 ⑥県技術士会の活性化：ホームページの更なる改編・充実を実行し、積極的な情報開示・会員募集、増員を図る等です。

#### **第4号議案：令和7年度収支予算（案）**

原案通り承認

第3号議案を遂行するための予算案を作成、提案しました。詳細な金額はここでは紙面の都合上ここでは省略しますが、50周年記念事業を考慮し、収入は1,572,400円、支出は1,975,000円、繰越金1,219,472円で総会時に議案書で提示した通りです。詳細は議案書をご参照ください。

#### **第5号議案：令和7・8年度役員構成（案）**

原案通り承認

改定内容の主な点は

##### 1：変更内容

役員総数は顧問を含め16名で、留任及び転任が10名、新役員就任が6名で、主な変更点は川村昭宣氏が副会長を退任し、顧問に就任した点及び副会長には新たに石瀬史朗氏が就任しました。会長は前年度同様変更なく、山口和登

が就任し、山口昭光副会長は留任いたしました。又、理事より監事に園田直氏が転任し、新たな監事に新任の安井広宣氏が就任いたしました。

2：役員構成は下表に示す通りです。

#### **【役員】**

令和7・8年度		主な役割分担
会長	山口和登	会務全般、50周年記念誌編集委員
副会長	山口昭光	九州本部との連絡調整
副会長	石瀬史朗	三菱重工関連との連絡調整
理事	横山知充	50周年記念誌編集委員
理事	兒玉英治	長崎市役所との連絡調整
理事	清水正明	九州本部との連絡調整
理事	有吉正敏	長崎県との連絡調整
理事	安武昭典	三菱重工関連との連絡調整
理事	折田定良	九州本部との連絡調整
理事	浦瀬俊郎	長崎県との連絡調整
理事	山本泰彦	50周年記念誌編集委員
理事	田口美菜子	民間企業との連絡調整
理事	田嶋博文	長崎県との連絡調整
監事	園田直志	機関紙編集 50周年記念誌編集委員
監事	安井広宣	民間企業との連絡調整
顧問	川村昭宣	50周年記念誌編集委員長

#### **第6号議案：創立50周年記念事業（案）**

原案通り承認

開催要領

長崎県技術士会は昭和50年（1975年）に創立されました。この為、令和7年（2025年）長崎県技術士会創立50周年に当たる為、「長崎県技術士会創立50周年記念事業」を開催することを計画する。

1) 事業内容の詳細は令和7年度中に計画・実施する。

2) 長崎県技術士会創立50周年記念誌を刊行する。

記念誌編集・印刷等については編集委員会を設置し、委員会で協議実行する。

3) 編集委員は会員歴や経験等を考慮し、川村顧問を委員長とし、川村委員長が指名した4名の計5名（5号議案参照）で構成し、記念誌編集・印刷等を行う。

4) 記念誌の発行部数は500部とする。

- 5) 記念誌配布先は長崎県技術士会全会員、国・県・市・町等関係機関、大学・高専・工業高校等の教育機関、技術士会関連関係先、学会関係先、協賛広告掲載団体・法人・個人、その他関係者とする。
- 6) 記念事業費用は協賛広告を募集し、記念事業の費用に充てる。詳細については役員会で検討し、委員会で計画・実行する。
- 7) 協賛広告の枠や費用については、今後検討し、会員所属関係企業・個人技術士事務所等・団体等にお願いし、協賛広告を募ることとする。
- 8) 記念事業の収支報告については次年度（令和8年度）の総会で報告する。
- 8) 会員投稿（現在・過去の役員、初期の会員、若手会員、女性会員、有志）
- 9) 機関紙A P R E Nの目次・記事一覧
- 10) 長崎県技術士会の将来像、今後への期待
- 11) 協賛広告

### 3. 印刷費用・予算：

印刷会社数社に、発行部数500部で100～300頁を想定して、見積もりを取得中で、印刷費用は100～150万円程度と想定。

費用は協賛広告を募集して充当する。

### 4. 協賛広告：

平成13年発行の日本技術士会創立50周年記念誌や、過去の長崎県技術士会の名簿にも、多くの協賛広告掲載している。

これらに準拠し、協賛広告をお願いしていく。多くの団体の方々が、協賛広告を掲載して下さる様、お願い致します。

### 5. 配布先：

長崎県技術士会と関係の深い企業・団体に配布して、長崎県技術士会への今後益々の御援助・ご指導・ご協力をお願いする。

## 報告事項：50周年記念誌編集作業状況報告、及び協賛広告のお願い

### 1. 全体日程

4月より検討開始、毎月1回程度編集委員会開催、来年1月印刷会社に発注し、今年度内に配布完了を目指としている。

### 2. 記念誌の内容

長崎県支部創立10周年記念誌、長崎県技術士会創立40周年記念誌、及び日本技術士会創立50周年誌（平成13年2001年6月115日発行）を参照して、

下記案検討中。

- 1) 祝辞
- 2) 長崎県技術士会創立の経緯と背景
- 3) 長崎県技術士会と日本技術士会や九州支部との関係
- 4) 歴代役員一覧
- 5) 会員数推移
- 6) 草創期20年の足跡
- 7) 平成から令和の各種活動状況

## II. 日本技術士会長崎県支部年次大会

長崎県支部の年次大会は山口昭光支部長の挨拶の後、以下の報告がありました。

### 1. 令和6年度事業実績

4回のC P D研修会実施

### 2. 令和6年度収支報告及び監査報告

収入1,220,654円、支出1,084,323円、次年度繰越136,331円

会計幹事による監査報告(3/27実施)

### 3. 活動方針

会員状況報告、支部活動方針、支部役員構成、事務局

\*役員構成は長崎県技術士会の会員名簿等を参考ください。

#### 4. 令和7年度事業計画

4回のC P D研修会、2回のC P D見学会（1回は6年度の延期分開催）の計画、その他

#### 5. 令和7年度収支予算案

収入 999,554 円、支出 883,152 円、次年度繰越  
89,154 円

#### 6. その他報告

「日本技術士会の組織、九州本部会員数、九州における技術士登録数」についての説明他

加者相互の近況報告等の意見交換を行い、最後は長崎県技術士顧問の川村昭宣氏の発声もと一本締めを行い、楽しい交流会となりました。



写真-2：新規合格者 5 名

### III. C P D研修会

2名の講師による下記の演題でC P D研修会を開催しました。

演題①：「私の技術者倫理（私たちは何も知らない）」

講師：佐藤光雄氏（エヌティイエス技研株式会社、建設・総監）

演題②：「技術士C P D活動実績の管理及び活用制度、技術士（C P D認定）」

講師：山口昭光氏（長崎県支部長、農業）

各講師による講演終了後、活発な質疑応答が行われ、充実した研修会となりました。研修会内容の詳細は別に報告をまとめていますので、そちらをご参照ください。

### IV. 交流会

研修会終了後、ホテル内の別室で交流会を開催しました。新規合格者5名、研修会講師の1名を含め34名が参加しての盛大な交流会となりました。交流会においては長崎県技術士会の理事である清水正明氏の音頭のもと乾杯し、令和6年度新規合格者の自己紹介、新役員の自己紹介、参



写真-3：新役員 5 名（1名欠席）



写真-4：交流会状況

以上総会等の報告を行いました。会員各位の益々のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。

以上

## 令和7年度 第1回見学会報告

扇精光コンサルタンツ（株）

山本 奉彦（農業部門・建設部門）

令和7年5月23日（金）、長崎県支部第1回見学会を、島原振興局建設部、および施工業者の協力により開催しましたので報告いたします。

・開催場所：雲仙市愛の夢未来センター（雲仙市愛野町）島原道路 吾妻西IC付近現場（雲仙市吾妻町）

・出席者：18名

### 演題「島原道路における沈埋工法の施工計画と敷設計画」

【講師】長崎県島原振興局建設部

西山 純 係長

地域高規格道路 島原道路の事業概要および、一般国道251号線（瑞穂吾妻バイパス）山田原地区における本線函渠工の計画と施工について講演と現場説明を頂いた。

#### 【講演内容】

県内外をつなぐ広域道路ネットワークの一環として整備中の島原道路は、諫早ICから南島原市深江町を結ぶ約50kmの自動車専用道路で、従来、国道57号線と広域農道経由で90分の所要時間が全線開通後は40分と大幅な時間短縮により、渋滞緩和のほか、島原半島の基幹産業である観光や農業の振興、救急医療体制の強化等が期待されている。

現在、約25kmが供用中、約21.7kmを整備中である。

令和3年度に工事に着手した瑞穂吾妻バイパス6.4kmのうち、吾妻町山田原地区の657mでは、内空断面W7.5m、H約5m×上下線2

連を沈埋工法による函渠工で設計されており、令和8年度完成を目指して工事が進められている。

今回見学した現場は、函渠工区間の最も西側で広域農道と立体交差する部分にある。あらかじめ広域農道の迂回路が設置されており、幅1mで5分割に工場製作されたコンクリート部材をトレーラーで搬入し、200t吊クレーラークレーンで所定の位置に据付後、部材を連結する。1函体

（断面）の据付が完了したら、縦締めと緊張を行い、グラウト注入や底版コンクリートを打設して完成する。

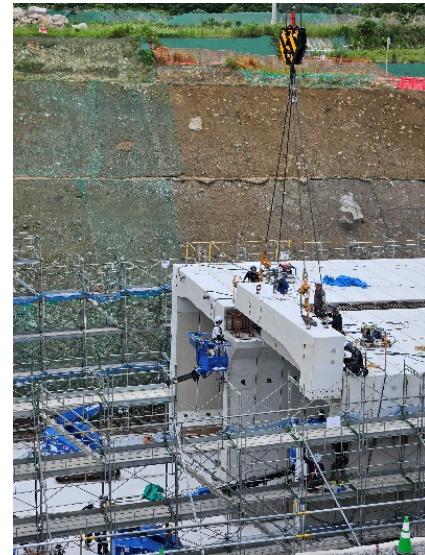
現場では、JVの技術者やオペレーター、作業員等22名で作業が行われていた。既に当日最後の据付部材であるヘッドスラブは玉掛が終わっていたが、見学会参加者が現場に到着するのを待っていた。参加者が見守る中、約20tの部材が軽々と持ち上げられ、ゆっくり左旋回しながら壁部材上に据え付けられた。

参加者は、講師や現場作業者に熱心に質問するなど、日頃、見ることが出来ない工事に関心が高いことがうかがわれた。

#### 【感想】

平成9年度に愛野町～島原市間が開通した広域農道（雲仙グリーンロード）は、年々交通量が増加して国道のバイパス的な役割を果してきた。クロソイド曲線を採用しているが、昭和時代の農道の基準で設計されているため幅員が狭い、縦断勾配がきつい、平面交差が多い、舗装面の劣化が早いなど、国道のバイパスとして十分な機能を果たしているとは云い難い状況である。また、交通量が多いため、本来、農道の主役であるトラクターや、農作物を積んだ軽トラックなどの農業用車両にとって利用しにくい状況にある。

島原道路の開通により、一般車両は島原道路を利用し広域農道の交通量も減少して、農業用車両中心になると予想される。また、山田原地区は、農地の基盤整備を契機に全国有数のブロッコリー産地に成長した、若手後継者も多い地域である。沈埋工法の採用により、農地面積の減少が最小限に抑えられ、農作業効率化の阻害要因となる農地の分断も回避されている。島原道路は、沿線農家にも配慮した地域にやさしい道路と云える。



(写真7) 据付

(了)



(写真5) 講義



(写真6) 現場説明

## 令和7年度第1回C P D研修会報告

三菱重工交通・建設エンジニアリング株式会社  
西日本建設統括部 統括部長  
安井 広宣 (建設・総合技術監理部門)

6月7日(土)に開催された長崎県支部第1回C P D研修会について報告致します。

**演題1 「私の技術者倫理 (私たちは何も知らない)」**

講師 佐藤光雄氏 エヌティエス技研(株)  
(建設・総合技術監理部門)

プロフェッショナルエンジニア(P E)にとって社会の要請に答えるためには、常に問い合わせながら判断し決定することが必要とされるなかで、昨今、技術者が介在した不祥事や事件、事故が後を絶たない中、人が一瞬にして変わり、社会全体の幸せを考え、他社貢献や相互扶助ができることについて講演いただいた。



写真-8：佐藤光雄講師

#### 【講演内容】

まず、伝えたいこと、それは「私たちは何も知らない」こと、そして「人は一瞬にして変わる」こと、その共感する瞬間、腑に落ちた瞬間があり、そこから私たちは価値観を形成する。

学問とは分からないことを探求することだが、学問的裏付けについては常に探求されており、世の中には知らないことがあふれている。そして、その知ったかぶりが不祥事、事件、事故を招いている。その中で、人は一瞬にして変わるときがあり、それはいろんな書籍や出来事が影響されるときがある。その共感する瞬間や腑に落ちた瞬間、影響を受けた書籍や言葉が講演の中で紹介された。また、2012年当時のウルグアイ大統領ホセ・ムヒカ氏の国連会議での胸に刺さる伝説的なスピーチもビデオで紹介された。「我々は発展するためにこの地球上にやってきたのではない、幸せになるためにやってきた」世界一質素な大統領として有名なホセ・ムヒカ氏の言葉は何度聞いても心に響く。

今回の講演では、私たちは何も知らないから謙虚さをもって知的になろうとする努力が大切なこと、腑に落ちた瞬間は書籍や講演、との会話で得ることができ、ここから倫理観を形成できること、それから問い合わせ立て決定していく行為が倫理

となり、リスクマネジメントは知的になるための道具であり、手段であることを学んだ。

そして、最優先事項は「公衆の安全・健康・福利」であり、その目的は人々の幸せであり、競争社会や市場経済の中では、みんな自分が正しいと思って生きている中で軋轢や葛藤が生まれるが、最優先事項を念頭において、純粋直観による確信（＝倫理的意思決定）を社会全体の幸せ（＝公衆の安全、健康、福利）につなげていくことが重要で、人々が安全に健康を望む生活ができることに異論をはさむ人はいないと最後に締められました。

#### 演題2 「技術士CPD活動実績の管理及び活用制度、技術士（CPD認定）」

講師 山口昭光氏（長崎県支部長、農業部門）

長崎県支部長より「技術士CPD活動実績の管理及び活用制度」の詳細内容について、今回講師としてご説明して頂きました。



写真-9：山口昭光講師

#### 【講演内容】

2021年9月より「技術士CPD活動実績の管理及び活用制度」が開始されたが、全国の技術士登録者が約10万2千人のうち、CPD実績記載申請者数は3,713名に留まっている。長崎県は技術士登録者数が482名、うち正会員は115

名で23.9%、CPD認定者は16名、推奨CPD時間の2024年度活動実績を登録されたのは20名、基準CPD時間達成の掲載は確認できなかった。

このような現状の中で、新・技術士CPD制度についてご説明頂いた。特に、オンライン手続き要領や申請手数料、登録IDについて、またCPD活動実績登録簿への記載・登録要領、ホームページの有効活用方法などについて詳しくご説明して頂いた。

会員の皆様へはWeb名簿の検索画面から名簿の確認をして頂きたく、また本人が情報更新しないと反映できないので、可能であればご自身で情報の更新をお願いします。



写真-10：研修会風景

(了)

#### ※ 機関紙発行担当からのお知らせ

##### (1) 新入会員の紹介（4～6月役員会承認）

(区分)	(氏名)	(部門)	(所属)
A会員	岩永正幸	建設	長崎県長崎振興局
A会員	松尾 祐	建設	株式会社 工藤測量設計
A会員	大城進太郎	建設	扇精光コンサルタント(株)
A会員	竹下 朗	水産	長崎大学海洋未来イノベーション機構
A会員	川崎 巧	建設・総監	有限会社 吉川土木コンサルタント
A会員	山口哲成	建設	有限会社 吉川土木コンサルタント
A会員	松尾一弘	建設	株式会社 長崎測量設計
A会員	松下崇俊	電気電子	三菱重工業株式会社

- (2) 令和7年度版の会員名簿を作成中です。印刷・製本が完了し、会員各位にお届けできるのは7～8月の予定です。
- (3) 第2回CPD研修会は9月3日（水）に諫早商工会館で開催予定です。詳細は後日案内いたします。

編集代表＆連絡先  
N.ソノダ技術士事務所 代表 園田直志  
sonoda\_naoshi@icloud.com